

美瑛岳

美瑛町立美瑛中学校
学校だより
令和5年10月号

「納得解」

校長 金山 達也

今月中旬までは、例年のない暖気により、秋の深まりも少し遅い感じでしたが、さすがに中旬を過ぎてからは寒さがしみる日が多くなってきています。美瑛の町の木々も色づいてきています。今年は例年よりも短い秋となるのでしょうか・・・。

さて、先週の生徒総会の時に全校生徒に向けて、これから必要となる身につけてほしい力の話をしました。その際、大事なキーワードを伝え忘れてしまいました。それが表題にある「納得解」です。

『納得解』・・・まだ検証されていないが、納得できる解(答え)、
または、正解のない課題での解決案・・・引用元 HatenaKeyword
もっとかみ砕いて言えば、自分やみんなが納得できる答えとなります。

少しさかのぼりますが、コロナ禍前の平成31年4月に当時の芝山文部科学大臣が中央教育審議会(今後の教育について議論・検討する会)に次のような課題(諮問)を出しました。「次代を担う子どもたちには、読解力、表現力、情報活用力、そして、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解(答え)や『納得解』を生み出す力が必要である。」先行き不透明な時代に、生きる力を身につけさせることは、現代教育の使命であるが、より具体的な必要となる力の身につけ方などを考えてほしいという課題でした。

先日、3年生の社会の時間を参観しました。地方自治という単元全体で「美瑛町へ提案しよう」という授業でした。様々なアイデアがある中、美瑛町の現状を調べていくうちに自分のアイデアが可能かどうかを検討していきます。クロムブックで関連事項を検索し、仲間と議論し、また検討する。当然のごとく正解は複数あり、もしかしたら、現段階では正解までたどり着けないかもしれません。でも、正解がないからといって立ち止まっていたら、何も始まりません。自分が納得する案を周りの人も納得する案へと改善していく。情報を収集する力、アドバイスを受け止める力、意見をまとめる力、表現する力・・・様々な力を身につけていかなければなりません。学校はいろいろな考えをもつ人が集まっています。生活していく中で、様々なことを話し合い、望ましい方向へ進む力を養うところでもあります。知識はオンラインでも十分ではないかという論調もあるやに聞いていますが、前述した「納得解」を生み出す力をつけるためには、お互いの顔を見ながら学校における日常の活動はもちろんのことイベントや行事はなくてはならないものだと思っています。生徒のための学校活動であることを常に念頭におきながら後期の教育活動に尽力していきます。

宿泊研修に行ってきました！

9月27日(水)から28日(木)の1泊2日、2年生が宿泊研修に行ってきました。



1日目は、札幌芸術の森を訪れ、寄木制作体験をし、午後からはグループに分かれて各種専門学校訪問をしました。夕食では焼肉バイキングでお腹を満たし、夜は時計台の隣に新しくできた、木がふんだんに使われたホテルに宿泊しました。



2日目は、赤平の植松電機に行き、ロケット製作・打ち上げ体験と植松社長の講話をお聞きしました。

1泊2日とは思えないほど充実した日程の中、生徒自らが立てた「challenge everything～一人一人礼儀を忘れず楽しく学ぼう～」のスローガンの通り、素晴らしい態度で、仲間との絆を深めつつ、楽しい学びができました。



将来の自分を見つめて～1,2年生キャリア学習～

10月は、1年生が町内や旭川の企業を訪問し見学する「職場訪問学習」、2年生が町内外の企業等を訪れて仕事を体験させていただく「職場体験学習」に取り組みました。どちらの学年も、礼儀正しく挨拶する様子や熱心に説明を聞く姿が見られました。それぞれ実際の仕事の現場に入っていくことで、自身の職業観を高めることができました。



来年はもっと増やしていけるように

美瑛中学校運営協議会では地域と学校を結ぶことを目的に活動を進めており、今年度も春に、学校前の通称「あいさつ通り」の植樹樹にコキアの種を蒔きました。今年は東町町内会の皆様にもご協力いただきました。種の状態が良くなかったのか、思うように芽を出してはくれませんでした。いくつか伸びたコキアの片付けを行いました。来年は苗づくりから始めてしっかりと伸びるように、そして地域の方との関わりをもっと増やしていけるように進めてまいりたいと思っております。

